

ことばを追い越して

宮本益光 作詞 / 三宅悠太 作曲

いつか君が

ことばにならない感動に涙するとき
君は魂の躍動を聞くだろう

そのとき君の真ん中は

ことばを追い越して
君自身がことばになる

君はその躍動にただ浸ればいい

こうして君だけのことばが芽吹く

君はその躍動にただ歌えばいい

こうして君だけのことばが届く

いつか君が

ことばにならない悲しみに立ちつくすとき

君は魂の静寂を聞くだろう

そのとき君の真ん中は

ことばを追い越して
君自身がことばになる

君はその静寂にただ誓えばいい

こうして君だけのことばが芽吹く

君はその静寂にただ歌えばいい

こうして君だけのことばが届く

$\text{♩} = 92$
f sosten.
con ped.
p espr.
accel. $\text{♩} = 108$
mf
mp
rit.
dim.
l.v.

6 *a tempo* ($\text{♩} = 108$)
unis. p
 い つ か き み が
- pp
p
a tempo ($\text{♩} = 108$)

11

div.

ことばに ならないー

{ かなど うにー
か な し み にー

p

M

*2回目

15

ー たちつ くす と きー

ー な み だ す る と きー }
*(ー たちつ くす と きー)

p

Lu lu lu lu

mp

き み は た ま し いー の

(小音符は2回目のとき)

19 *mp* *mf*

lu きみは たましいーの {やく どう を} きくだろう
せ い じゃく を

lu きみは たましいーの U {やく どう を} きく
せ い じゃく を

き み は た ま し い ー の U

mf

un poco animato

23 *mf*

きくだ ろ う そのと き きみの

だ ろ う ー ー そのと き き み の

きくだ ろ う き

un poco animato

mf

27

きみのまんなかは A おいこして

きみのまんなかは ことばをおいこして

みのまんなかは ことばをおいこして

cresc. poco a poco

31

cresc. poco a poco - - - - - *f*

きみじんが - きみじんが ことばになる - - - - - きみ

cresc. poco a poco - - - - - *f*

きみじんが - きみじんが ことばになる - - - - - なる - きみ

cresc. poco a poco - - - - - *f*

おいこして - - - - - ことばになる - - - - - なる - きみ

cresc. poco a poco - - - - - *f*

36

は その その {やくどうに やくどうに ただ ひたればい い}
 {せいじゃくに せいじゃくに ただ ちかえばい い}

は その その {やくどうに やく どうに ただ ひたればい い}
 {せいじゃくに せい じゃくに ただ ちかえばい い}

40

こゝして きみ だ けの こ と ばがめ ぶ く
 き み だ け の こ と ばがめ ぶ く きみ

き み だ け の め ぶ ー く きみ

A

44

は その その {やくどうに やくどうに} ただ うたえばい い
 {せいじゃくに せいじゃくに}

は その その {やくどうに やくどうに} ただ うたえばい い
 {せいじゃくに せいじゃくに}

48 こうしてきみだけーのー ことばがー **mf** 1.

きみだけのー ことばがー とどくー **mf**

きみだけのー ことばがー とどくー

53 ※ **mp** Lu lu lu...
※ **mp** M.

58 **mf** *rit.* Lu lu lu lu **mf**

sosten. **mf** *poco f* *dim.* *rit.* **p**

※ 57～62小節の合唱パートは、省略してもよい。

63 *f* *f*

2. *f* *f*

こ う し て き み だ け の こ と ば が

こ う し て き み だ け の こ と ば が

67 *poco riten.* *unis. mf* *a tempo*

mf *a tempo*

と ど く

と ど く

poco riten. *espr. mp* *a tempo*

71 *allarg.* - - *Poco meno mosso* (♩=92) *rit.* - - -

allarg. - - *Poco meno mosso* (♩=92) *rit.*

sosten. *poco f* *p* *f* *dim.*

作品に寄せて

言葉というものは実に不思議です。いつ、どこで、どのようにして決まったか分からない音の並びに、私たちは自らの感情を託します。

私の「嬉しい」と誰かの「嬉しい」は決して同じではないのに、言葉は「嬉しい」を選び合うことがあるし、うまく言い表せない感情に支配されて言葉に彷徨うこともあります。

しかしいずれの場合も、言葉を探す前に心の中に感情の起こりがあります。「何を言ったか」ではなく、「何を感じたか」で分かり合えたら、もしかしたら人は言葉そのものを放棄出来るのではないか、そんなことを考えながらこの詩を書きました。

歌を愛する人ならば、心が言葉（メロディー）に染まるという体験をしたこともあるでしょう。そのときの言葉（歌詞）は決して借り物ではなく、あなただけのものとして響くのです。

宮本益光

演奏してくださる皆さんへ

『子どもから大人までが一緒に歌えるような、前を向ける楽曲を——』

出版社からリクエストを頂戴した時、すぐに“宮本益光さんに歌詞を書いてもらいたい”という願いが湧き起こった。ありがたくもご快諾くださり、書き下ろしていただいたのが、この「ことばを追い越して」だった。歌詞への心からの共感。これはすぐさまエネルギーへと昇華し、作曲に向かう筆を力強く前に進めてくれた。歌になることでこのテキストがいつそう輝き、深まっていく、そんな音楽を目指して——。

演奏にあたっては、A メロ／B メロ／サビ…の変化をコントラスト豊かに表現して下さったと思う。（例：A メロはレガートかつ大らかなフレージングで。B メロはピアノパートのリズムとアンサンブルしてやや躍動的に。テンポが自然と前向きになっても良いだろう。サビは雄大かつエネルギーに。）言葉に命が吹き込まれ、音楽によってひとつのドラマが形成されることを願っている。

三宅悠太